

坂本まさし

世田谷から、「手取りを増やす」「孤立をなくす」東京へ。
やさしく、そして強い都市を、都政からつくる。

走れ！都政の現場から。

東京都議会令和8年第1回定例会（2月18日～3月27日）にて国民民主党東京都議団を代表して、昨年末に会派として知事に向け予算要望をした内容を抜粋して全35問題について質問しました。こちらより質問の一部を抜粋・要約して速報いたします。



質問の主なテーマ

- 知事の基本姿勢・財政運営
- 医療・福祉政策
- 都政運営・デジタル化
- 産業・労働政策
- 住宅・都市づくり
- 教育政策
- 防災・都市安全

議会映像はこちらから▶

議会映像 会議録(全文)

財政と設計思想

可処分所得向上を軸とした予算編成

Q 東京が稼ぐ。その成果が都民の手取りに届く。その循環をどのような戦略のもとで設計し、実行していくのか。令和8年度予算に込めた戦略と、特に重視した政策の考え方について、知事の見解を伺う。

A 社会経済情勢が不確実な中、東京の成長力を一層高めていくためには、先手先手で未来への投資を積極的に行っていかなければならない。こうした考えの下、令和8年度予算では、「人」が輝き、活力に溢れ、安全・安心な東京へとさらに進化させるための施策を、スピード感を持って積極的に展開。

小池知事

公金運用高度化と都民還元

Q 公金運用に企業経営の視点を取り入れ、柔軟な運用手法の検討を行うなど、収益機会の拡大に向け、基金の積極的な運用が重要。稼ぐ力を高めるべく、さらなる運用収入の拡大に向け取り組むべきと考えるが都の見解を伺う。

A 効果的な預金の引合いに取り組むほか、債券割合を段階的に高めている。第3四半期では、前年同期と比べ利回りが4倍。運用収入は四半期毎の実績公表を始めた平成14年度以降、最高額約82億円となっている。

会計管理局長

手取りを増やす

年収の壁対策

Q 都民が「年収の壁」を気にせずに意欲を持って働いて「手取り増」に繋げる取組を強化する必要があるが、見解を伺う。

A 令和8年度は、「年収の壁」の正確な理解の促進に加え、ライフプランの作成等を行うセミナーを新たに開催し、一層の普及啓発を図り、「年収の壁」を意識せず働ける環境整備に取り組む企業を後押ししていく。

産業労働局長

就職氷河期世代支援

Q 就職氷河期世代と言われる世代の方々が、今後、安心して働くことができるよう、所得の向上など処遇を改善する施策を一層強化していくべきと考えるが、都の見解を伺う。

A 都は、中小企業が就職氷河期世代の方を正規雇用した場合の助成金において、賃上げや退職金制度の整備等を行った場合に加算。令和8年度は、助成企業数を拡大するとともに、賃上げを行った場合に加算対象となる従業員数を増やすなど支援を強化。これにより、就職氷河期世代の処遇向上に取り組む企業を後押ししていく。

産業労働局長

アフォーダブル住宅

Q 現役世代から豊かにするためには、より踏み込んだアプローチが必要である。アフォーダブル住宅供給の取組はその一助になると考えるが、住宅政策におけるアフォーダブル住宅の意義について知事の見解を伺う。

A 今後も都市の活力を維持していくため、子育て世帯等が手頃な家賃で住むことができるよう、民間活力や既存ストックを活用し、アフォーダブル住宅の供給を誘導。

小池知事

バスの運転士不足対策

Q 都民生活を支えるバス路線を今後も維持していくためには、採用や育成、処遇の改善などの民間バス事業者の取組を、都が積極的に支援していくことが必要と考えるが、見解を伺う。

A 都は、令和8年度、運転士の魅力を効果的に発信するため、採用につながるイベントなどを事業者等と連携して実施する。また、バス運転士への居住に係る支援や若者等の採用・育成等に取り組む民間バス事業者を後押しする。このような取組を通じて、バス路線の維持に必要な運転士を確保していく。

小池知事

つながる都政

東京アプリ高度化(三つのそびれの解消)

Q 都民が「使える」「役に立つ」と実感できる行政サービスを広げるためには、「知りそびれ・申し込みそびれ・もらいそびれ」という三つの“そびれ”をなくしていくことが重要。東京アプリを利用者目線で進化させるため、今後どのように取り組んでいくのか、見解を伺う。

A 「知りそびれ・申し込みそびれ・もらいそびれ」をなくすため、行政サービスを見つけやすくする機能や、区市町村の情報へアクセスできる機能の充実を進めていく。今後はマイナンバーカードの活用などにより、ライフシーンに応じたサービスをプッシュ型で提供できるようにする。

宮坂副知事

プロフィール

東京都議会議員（世田谷区選出 1 期目）
国民民主党東京都議団 幹事長
世田谷区深沢在住
1971年 1月6日 生まれ（55歳）
青山学院大学 経済学部経済学科
青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科 卒

1993年 新卒で金融機関に入社
2005年 投資会社に参画し、投資先企業の経営に従事
2010年 CRM領域のコンサルティング会社を設立（現任）
2012年 大学院非常勤講師（現任）としてCRM戦略を担当
2025年 東京都議会議員選挙に出馬し初当選

都政へのご意見・ご要望をお聞かせください [坂本まさし](#) [検索](#)

障がい児支援と18歳の壁

Q 障がい児の放課後支援は進んでいますが、医療的ケア児や長期休暇中の支援にはなお課題がある。令和8年度、家族が安心して就労を継続できる環境整備にどう取り組むのか、伺う。

A 令和8年度からは、看護師の配置数に応じた加算を設ける。また、学校の長期休暇中の朝の時間帯における預け先を確保するため、施設の借上げや専門職の確保など、障がい児が過ごせる居場所づくりに取り組む区市町村への支援を開始する。

福祉局長

不登校支援

Q 不登校への対応について、不登校対応の経験のある教員が学校間を定期的に巡回し、取組を共有することが有効であり、巡回教員の充実を図る必要があると考えるが、所見を伺う。

A 都教育委員会は、不登校に関する様々な知識等をもつ教員が中学校を巡回し、対応の方法の助言等を行うサポートを実施。この取組では、教員へのアドバイスに加え、相談対応の進め方に関する研修も実施。令和8年度はその体制を充実し訪問する学校の数を増やす。

教育長

「知りそびれ・申し込みそびれ・もらいそびれ」この三つの“そびれ”を解消するためには、**Citizen Relationship Management (市民関係管理)**

の社会実装が不可欠です。東京アプリを行政手続き、防災、医療、教育などをワンストップで提供する基盤へと進化させ、都民が「便利だから使いたい」と実感できる存在にしていくべきです。将来的には、スマートフォンが使えない方も利用できる「**誰一人取り残されない行政の基盤**」を目指していきます。



やさしく、そして強い東京へ。
世田谷から、確かな変化を。

坂本まさし都議会事務所

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
東京都議会議事堂5F（国民民主党東京都議団控室）
MOBILE 070-2220-9150

